

学校支援

令和元年12月16日 NO.9

発行：北広島市学校支援地域本部

連絡先：北広島市教育委員会社会教育課内

TEL：372-3311(内線4847)

Fax：372-4525

学校支援コーディネーター

小西 稔 伊藤 登喜子

学校支援ボランティア交流会を実施

11月26日（火）に令和元年度学校支援ボランティア交流会を実施しました。この交流会は、学校支援地域本部事業の説明や学校支援ボランティアの相互交流を目的として毎年、実施しているものです。本年度は学校支援ボランティア27名、大学生5名、学校関係者15名、教育委員会7名、合計54名が参加しました。

テーマ「学校支援ボランティアに携わって」

グループ交流(グループ交流①②で出された意見の要旨)

【ボランティアの皆さんのご意見(感想) ※重複する内容は掲載していません】

○障害のある子供たちの対応がわからず困っている。対応方法を教えてもらいたい。

- ・スキーではそのための講習がある。(組織もある)
- ・学習会では、事前に聞くことで対応している。(情報を)
- ・気持ちを落ち着かせクールダウンさせる(教員)
- ・習字の時も2～3人の多動の子がいたが、しっかり見ていることを伝えつつ、ほめることで落ち着くようになった。
- ・場所を変えたりすることもよい。(教員)
- ・より良くするために、サポートする方をさらにサポートするシステムが必要である。



○スキー授業について



- ・スキーの準備について、親への発信はどうか。帽子がない、手袋が薄い等、整っていない家族も多い
- ・もっと暖かい格好、安全第一。持ち物については、保護者にしっかり言う。
- ・ボランティアのレベルでどこまで指導(生活面)すればいいのか。
- ・先生方の関わり方が、重要。事前の打ち合わせはどうか。
- ・小学校は、スキーの前に打合せすることは多い。
- ・学校のねらいをしっかり伝えることが大切。

- ・スキーは自然環境等で大変危険、十分注意していくべき。
- ・全体指導に心がけ、安全、けがには十分気を付ける。
- ・担当の先生とよく相談。安全、命については厳しくてよい。

○見回り活動について

- ・みんなで分担して。人員を募集してみるけど、なかなか人が集まらない。
- ・他では、人数を集めるためにどのようなことをしているのか。
- ・強制はできない。自主的が基本だがなかなか大変。のんびりで気長にやるしかない。
- ・ある程度、予算が必要なのでは。

○活動してよかった(嬉しかった)こと

- ・書道で色紙に書いたものを家の宝にしているのがとてもうれしい。
- ・長くやっていると覚えてもらえることがうれしい。子どもとのつながりが良かった。
- ・老人会に若くから入っているが、子供たちから挨拶してくれることがうれしい。
- ・お礼の手紙がもらうのがうれしい。
- ・苦痛に思ったことはない。
- ・教えられることがたくさんあった。
- ・学校支援というよりも私たちが支えられている。

- ・時代の移り変わりによって、遊びも変化。その中でメンコや竹とんぼ、昔の遊び道具の存在は大きい。体を使ってこそ遊びの存在意義がある。
- ・子どもから発せられる言葉にいろいろと発見できることがある。それが楽しみで支援を続けている。刺激を受けている。子供に教わることが多い。
- ・久しぶりのボランティアをしたが、今の子ども達について恣意的と言われているが、スキー学習支援を通じて、素直さに触れることができてほっとしている。子供からエネルギーをもらっている。
- ・支援に対する報酬だけでない、何か貴重なものを支援する者ももらっているのではないか。
- ・言葉に対する感受性の高い子供が多い。カルタ遊びを見ている能力の高い子供は少なくない。
- ・今の子ども達は、しっかりしていて、話もきちんと聞くことができる。学校が昔の遊びを取り入れていることに感謝している。



○ボランティアで困っていること

- ・スキー技術の差がある中で、やらせていい子と、ダメな子との判断が難しい。
- ・事前の打ち合わせが重要である。指導の目標を伝えなければならない。
- ・平和教育で難しい質問が出ることもある。思想信条は言えないが・・・
- ・ボランティアが叱ることについて、いろいろな子供がいるが、まずは約束をしてから始めている。その場合は、ボランティアと子供のやり取りなので事前の約束とできた時のほめることが大切。学校からの事前情報が必要。
- ・様々な子がいるので傷つけないためにも児童の実態を知っておくことが大切ある
- ・外人に日本語指導をするとき、ライフプランを考えた時、日本語の読み書きは大切。何に重きをおいてどうすればいいか悩む。自分が基本となる日本語をどう指導してよいのか。週2回では、なかなか定着が図れない。学習支援については、簡単に答えを言わないで、解き方やヒントなど、子供の学習を支える立場になって対応している。

○ボランティア活動をよりよくするために

- ・学校が求めること（何を指導？どう指導？）がわからなかったが、情報交換の必要性が分かった。
- ・登録しているが、学校と接触がなければ活動につながらない可能性がある。
- ・どのようなボランティアがあるのか、もっと知りたい。もっと情報発信を。

○活動の継続化について



- ・ボランティアの高齢化が課題
- ・ボランティアの声掛けの輪の広がりが大切。
- ・ボランティアの喜び、やりがいを伝えたい。
- ・やめようと思ったが、交流会で、このような話を聞くと、もう少し頑張ろうかなと思う。
- ・もう少し、市民にアピールする。親が真剣に関わる必要がある。何でも学校に頼るのではなくて。
- ・今は、大人も含め、価値観の多様化によって、見本となるものが見つけられない。コミュニケーション能力が重要な時

代、人とのかかわりがなくては能力が高まらない。いろいろな大人がかかわってあげること、声をかけてあげることが重要。

【大学生から（通学合宿の体験を含む）】

- ・通学合宿を経験、教員希望で子どもと接する機会が貴重な体験となっている。
- ・大学生も同様だが、様々な背景を持つ子供が多い中、個性としてそれを当然のこととして共に生きていく意識が大切。
- ・勉強することの楽しさ、大切さを大学に入って分かった。ボランティアで専門性を生かす。日本の学習は型にはまりすぎているので好きでなくなる。自由にやらせる感性を育てる。いいところをほめて楽しく。
- ・大学では、教職を取っている人にボランティアの声がかかります。
- ・戦争を知らない教員になる自分自身もボランティアに学ぶことができありがたい。
- ・学校側とボランティアのコミュニケーションが大切。この場が増えると良い。